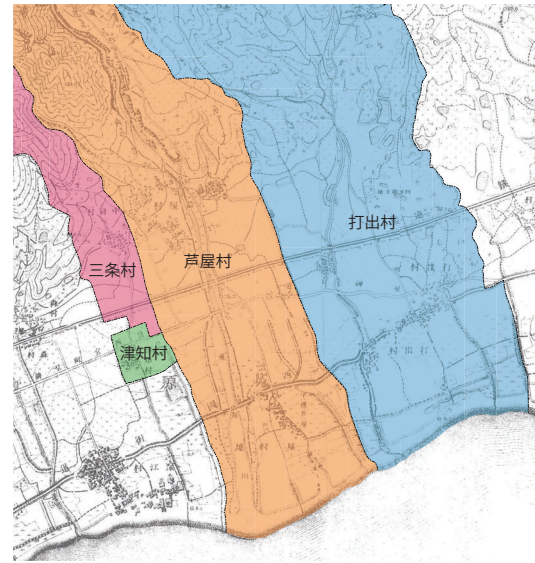


## 農村だった明治の精道村

明治22年(1889)4月1日、町村制施行に伴い、現在の芦屋市域にあった芦屋村・打出村・三条村・津知村の四か村が合併して精道村が誕生しました。

明治の精道村の生業は、江戸時代から変わらない農業が中心で、農村の風景が広がっていました。また、海浜では漁業が行われていました。



芦屋村・打出村・三条村・津知村の範囲

(明治17・18年[1884・1885]。[清水編1995]を改変・加筆)

明治22年(1889)、四か村が合併して精道村が誕生した。

### 「ててかむイワシ、いらんかえ」—精道村のイワシ漁

精道村の海浜では、イワシ魚を中心とした地曳網漁じびきあみりょうが行われていました。イワシは食用以外には干鰯ほしかとなり、肥料としても利用されました。

このあたりで獲れたイワシは「手を噛むほど新鮮」だったことから、魚売りが「ててかむイワシいらんかえ」と掛け声を挙げながらイワシを売り歩く風景がみられました。



精道村での地曳網漁の様子 (絵葉書：大正～昭和初期発行)

当時、近所の子どもたちは網を引くのを手伝うと、ご褒美に漁師からイワシを分けてもらえた。

## 芦屋川流域の水車場すいしゃば

芦屋市域を含む六甲山地南麓には、急流を活かした水車場が多数あり、これらは「なだめ灘目の水車」として知られていました。水車を用いた主な産業は、江戸時代には菜種油絞りや灘の酒造用の精米でしたが、明治以降になると製粉業へと変わり、明治中頃までは「なだもくそうめん灘目素麺」の原料である小麦粉を製粉しました。

しかし、1910年代頃から小型電動機が普及した結果、水車の役割はほとんどなくなり、急速に衰退しました。昭和初期まで残っていた水車も昭和13年(1938)の阪神大水害(22ページ)によって壊滅しました。



芦屋川東岸にあった水車場

(絵葉書：大正10年代～昭和初期発行)

(影撮上村) 町其景全屋芦 (所名屋芦)

写真は現在の東芦屋町を北東側から撮影したもので、中央に連なる樹々は芦屋川沿いの松林。左端手前の建物が水車場で、水車は建物内に設置されており、水車に掛ける水を導く木樋が屋根の真ん中を貫いている。

### コラム 「しぼりたての牛乳」で親しまれた東洋牧場

東洋牧場は、現在の川西町にあった牧場で、明治34年(1901)に助野庄兵衛すけのしょうべえが乳牛10頭の飼育から始めました。その後、明治45年(1912)には東洋牛乳株式会社を設立して規模を拡大し、大正年間には乳牛50頭前後を飼育していました。「しぼりたての牛乳」として親しまれていましたが、昭和20年(1945)8月5～6日の空襲によって焼失しました。



東洋牧場のパンフレット (昭和10年代発行)



(昭和初期撮影)